

# 知って得する 備蓄トイレの話

災害用の備蓄トイレ どんな種類が？  
どう使う？

想像してみてください。地震や水害、突然の停電でトイレが使えなくなったら。災害時にトイレを我慢することは健康被害にもつながり、備蓄を進めることが非常に大切です。どのようなトイレを備蓄すればいいのか、そして便利な使い方はどのようなものなのでしょうか。

◇自宅用には便器取り付けタイプがおすすめ 自宅ですらやって備えておけばよいのか。専門家などがすすめるのは「携帯トイレ」。中でも「自宅のトイレの便器に取り付けて使う袋タイプ」が特におすすめです。簡易トイレはトイレが破損してしまったり、避難所などでトイレが足りなくなったりした時に使えます。携帯トイレは最低3日分、できれば7日分あると安心です。例えば、1日に5回行く人であれば、5回×3日＝15回分。7日で35回分です。4人家族であれば3日で60回分、7日で140回分。1箱10回分入りの携帯トイレならば6箱～14箱：多いと思いますが災害時のトイレの不安は

心身ともに影響を及ぼすことを考えると多めに用意することが重要です。ではどうやって使うのか？ポイントは、はじめにゴミ袋などを用意して便器を覆うようにかぶせた後、便座をおろして挟んでおき、その上から携帯トイレを使うことです。携帯トイレが便器の底の水でぬれるのを防ぐことが出来るので衛生的です。捨てる時、災害直後は自治体などのゴミの収集も遅れてしまうので、しっかりと袋を結んでまとめておき、その後ゴミの収集などが始まったら自治体の指定にあわせて捨てるようにして下さい。



◇合わせて用意しておくといいモノ

1. トイレットペーパー
2. ランタンやヘッドライト
3. ポリ袋 (45リットル)
4. アルコールウェットティッシュやペーパータオル

災害後はトイレが一番の問題になると言っても過言ではないと強調します。現実に名古屋大学などの調査では、東日本大震災で3日以内に仮設トイレが届いた自治体は34%、半分近くの自治体では1週間たつても届きませんでした。最も日数がかかったのは65日後でした。「首都直下地震」では幹線道路が帰宅困難者であふれて避難所や公衆トイレに人が殺到し、最悪の場合、トイレに行きたくてもすぐに見つからない状況が17時間も続く可能性が指摘されています。想像するだけでも厳しい状況です。：。食料や水といった「体に入る備え」だけではなく「体から出すための備え」についてもぜひ考えてみてほしいです。(NHK 社会部災害の記事を引用) 私の家でも用意はしていますが、家族の人数と一週間分の回数を計算して不足していると感じました。